

第2節 河川の概要

圏域内の県管理河川は、一級河川が44河川と一級河川に指定予定の3河川の計47河川があり、その流域面積の合計は約900km²、指定区間延長は216.5kmです。

表1 手賀沼・印旛沼・根木名川圏域の県管理河川

No	幹川名	河川名	流域面積 (km ²)	指定延長 (m)	上流端	下流端
—		手賀川(直轄)	162.88	7,700	手賀沼からの流出点	利根川への合流点
1	手賀沼	└ 弁天川	2.00	1,500	手賀川からの分派点	手賀川への合流点
2		└ 下手賀川	21.50	1,900	下手賀沼からの流出点	手賀川への合流点
3		└ 下手賀沼	20.30	6,100	全面	手賀川への合流点
4	亀成川	└ 亀成川	16.80	7,150	印西市草深字石道谷津1566番1地先の防犯調節池	下手賀川への合流点
5		└ 浦部川	3.86	2,560	印西市浦部新田字木刈峠275番2地先の防犯調節池	亀成川への合流点
6		└ 和泉川	1.57	1,790	左岸 印西市和泉字上谷津1234番地先 右岸 印西市和泉字上谷津1235番1地先	亀成川への合流点
7		└ 鹿黒川	1.54	1,340	左岸 印西市鹿黒字上谷津14番1地先 右岸 印西市鹿黒字上谷津15番地先	亀成川への合流点
8		└ 大森川	0.72	1,500	左岸 印西市大森字蒲ヶ沢553番地先 右岸 印西市大森字蒲ヶ沢552番地先	亀成川への合流点
9		└ 古新田川	2.30	1,430	印西市別所字中大木戸416番地先の防災調整池	亀成川への合流点
10	手賀沼	└ 手賀沼	159.50	16,700	全面	
11	大津川	└ 大津川	35.89	7,900	鎌ヶ谷市佐津間字芝原 616番1地先の市道橋	手賀沼への合流点
12	大堀川	└ 大堀川	30.97	6,900	左岸 流山市駒木字上駒木416番1地先 右岸 流山市美田69番444地先	手賀沼への合流点
13	印旛沼	長門川	541.00	5,138	北印旛沼からの流出点	利根川への合流点
14		└ 旧長門川	0.00	2,920	印旛郡本埜村大字下井字新津41番28地先	長門川への合流点
15		└ 北印旛沼	83.80	14,567	全面	北印旛沼への流入点
16		└ 印旛水路	434.75	4,305	西印旛沼からの流出点	北印旛沼への流入点
17		└ 西印旛沼	431.00	11,107	全面	
18	鹿島川	└ 鹿島川	250.40	18,909	千葉市若葉区下泉町地先の県道千葉川上八街線橋下流端	西印旛沼への流入点
19		└ 高崎川	86.70	6,070	印旛郡酒々井町馬橋字題目塚地先の県道成栗酒々井線新堤大橋下流端	鹿島川への合流点
20	師戸川	└ 師戸川	15.05	6,690	左岸 印西市草深字箕輪626番1地先 右岸 印西市草深字箕輪627番1地先	西印旛沼への流入点
21		└ (角田川)	1.71	390	印西市角田地先の防災調節池	師戸川への合流点
22		└ 造谷川	1.98	150	左岸 印旛郡印旛村造谷字松ノ木23番地先 右岸 印旛郡印旛村造谷字松ノ木12番地先	師戸川への合流点
23	手線川	└ 手線川	30.07	2,772	左岸 佐倉市上原字ノノ上1425番地先 右岸 佐倉市白井台字船越1840番地先	西印旛沼への流入点
24		└ 小竹川	11.20	720	左岸 佐倉市青木字大和1563番地先 右岸 佐倉市小竹字山崎1525番地先	手線川への合流点
25	印旛沼	└ 印旛放水路(上流部)	108.05	8,935	西印旛沼からの流出点(阿宗橋)かど	大和田排水機場上流端
26	神崎川	└ 神崎川	56.00	14,560	左岸 白井市根字木戸前1046番地2地先 右岸 白井市根字上谷津952番地先	印旛放水路への合流点
27		└ 戸神川	8.09	2,480	印西市戸神字入和田449番地先の防災調節池	神崎川への合流点
28		└ 二重川	13.27	6,410	左岸 船橋市菅野台1丁目225番地先 右岸 船橋市八木が谷1丁目226番1地先	神崎川への合流点
29		└ 法目川	1.55	1,450	左岸 白井市大字復字根木山614番地先 右岸 白井市復字台631番地先	二重川への合流点
30		└ (復川)	0.45	320	白井市南山地先の防災調節池	法目川への合流点
31		└ 富ヶ沢川	0.90	510	左岸 白井市復字榎山300番地1地先 右岸 白井市復字中峰349番地先	二重川への合流点
32		└ 野口川	0.52	400	左岸 白井市木字野口51番地先 右岸 白井市根字戸前1502番2地先	神崎川への合流点
33		└ 七次川	1.14	740	白井市根字龍山1211番地先の防災調整池	神崎川への合流点
34		└ (木戸前川)	0.42	280	白井市根地先の防災調整池	神崎川への合流点
35		└ 桑納川	26.10	5,400	船橋市坪井町353番地先の市道橋	印旛放水路への合流点
36	└ 石神川	1.88	1,550	左岸 八千代市吉橋字石神1885番2地先 右岸 八千代市吉橋字西内野1839番4地先	桑納川への合流点	
37	印旛放水路(下流部)	└ 印旛放水路(下流部)	61.65	12,885	大和田排水機場下流端	東京湾に至る
38		└ 勝田川	20.24	3,590	千葉市花見川区宇那谷町2123番2地先の宇那谷橋	印旛放水路への合流点
39	竜台川	竜台川	6.25	1,900	左岸 印旛郡栄町興津字延間2117番1地先 右岸 成田市北羽島道下 260番1地先	利根川への合流点
40	十日川	十日川	15.32	5,000	成田市長沼字坂向3127番1地先の県道成田江戸崎線長津橋	利根川への合流点
41		└ 派川十日川	0.00	1,700	十日川からの分派点	根木名川への合流点
42	根木名川	根木名川	86.82	16,185	左岸 富里市大字大和字総見72番地先 右岸 成田市大字船ヶ田字前川137番地先	利根川への合流点
43		└ 荒海川	11.02	4,580	左岸 成田市大字東和泉字堂刈場4番地先 右岸 成田市大字小森字下谷津94番地先	根木名川への合流点
44		└ 小橋川	10.42	4,760	左岸 成田市大字郷字石橋592番地の1地先 右岸 成田市大字郷字石橋593番地先	根木名川への合流点
45		└ 取番川	25.31	4,860	左岸 成田市大字駒井野字辺田下12番地先 右岸 成田市大字駒井野字辺田下3番地先	根木名川への合流点
46	尾羽根川	派川根木名川	33.07	3,300	根木名川からの分派点	利根川への合流点
47		└ 尾羽根川	27.24	3,500	成田市土屋字高崎地先の市道久住停車場芝線高崎橋下流端	派川根木名川への合流点

() 書きは、千葉ニュータウン関連事業として、独立行政法人都市再生機構が調節池として整備後、河川管理施設として引き継がれる予定です

【^{てが}手賀沼】

かつての^{てが}手賀沼は一つの広大な沼でしたが、「手賀沼干拓事業」により、水面積 5.0km² の手賀沼と 1.5km² の^{しもてが}下手賀沼に分離され、現在の姿となりました。主な流入河川には^{おおほり}大堀川、^{おおつ}大津川、^{かめなり}亀成川があります。干拓事業が行われなかった区間には、堤防未整備箇所が残されています。干拓事業による堤防は、軟弱地盤上に設けられたために沈下が進んでおり、堤防高の維持が課題となっています。

【^{かめなり}亀成川】

^{かめなり}亀成川は、^{そうほ}印西市宗甫にその源を発し、^{やつだ}谷津田の中を西に向かって流下しながら^{こしんでん}古新田川、^{おおもり}大森川、^{かぐろ}鹿黒川、^{うらべ}浦部川を合流して^{しもてが}下手賀川に流入する流域面積 16.8km²、指定延長 15.8km（支川含む）の河川です。

亀成川は、千葉ニュータウンの開発に関連して改修が進められ、下流部は川幅 30m 程度、^{のり}法勾配 1:2 の河道として 1/50 規模で改修が完了しています。上流部や支川は、農業排水路として改修された当時の水路であり、河道断面は不足しています。

各河川の上流端は、千葉ニュータウンの建設に伴い設置された^{ちようせつち}防災調節池となっています。

【^{おおつ}大津川】

^{おおつ}大津川は、^{はつとみ}鎌ヶ谷市初富地先にその源を発し、谷津田の中をほぼ真っ直ぐに北流して手賀沼に流入する流域面積 35.9km²、指定延長 7.9km の河川です。

^{なかのはし}中之橋までは、広域基幹河川改修事業により、本整備計画と同等の規模で改修が進められており、川幅 50m 以上、法勾配 1:2 の河道に拡幅されていますが、中之橋より上流は、土地改良事業により整備された水路となっています。

【^{おおほり}大堀川】

^{おおほり}大堀川は、^{あおたしんでん}柏市青田新田にその源を発し、市街地の中に残された水田を潤しながら南流し、^{こまきばし}駒木橋付近でその流れを東向きに変え、柏市の住宅街を貫流して手賀沼に流入する流域面積 31.0km²、指定延長 6.9km の河川です。

手賀沼から駒木橋までの L=5,470m は北千葉導水事業に関連して法勾配 1:2 の河道で整備されています。河川整備に合わせて周辺環境の整備が行われ、柏市民の憩いの場として広く利用されています。駒木橋より上流は未改修区間であり、ここに調節池が建設される予定です。

【印旛沼】

印旛沼は、水面積 5.3km²の西印旛沼と 6.3km²の北印旛沼からなり、両沼は、印旛水路によって結ばれています。主な流入河川に鹿島川、師戸川、手繰川、神崎川、桑納川、印旛放水路（上流部）があります。かつての印旛沼は一つにつながった沼でしたが、「印旛沼開発事業」で分離され、現在の姿になりました。沼の堤防は、軟弱地盤上に設けられたために沈下が進んでおり、所定の堤防高を有していない区間も多く、対策が必要な状況となっています。印旛沼と利根川を結ぶ長門川は、印旛沼開発事業で川幅 70～80m法勾配 1:2の河道で整備され、この時、旧河道である旧長門川が取り残されました。印旛水路は、西印旛沼と北印旛沼の洪水の円滑な疎通を図るため、下総台地に川幅 50m の水路を開削したもので、圏域内の他の河川と趣が大きく異なる河川です。

【鹿島川】

鹿島川は、千葉市土気の「昭和の森」にその源を発し、谷津田の中を北上しながら弥富川、高崎川を合流して印旛沼へ流入する流域面積 250.4km²、指定延長 25.0km（高崎川含む）の圏域最大の河川です。

かつての印旛沼から高崎川合流点までは、沼とも川とも区別の付かないような湿地でしたが、「印旛沼開発事業」によって現在の河道と水田が整備されました。印旛沼開発事業に合わせて河道整備も実施され、法勾配 1:2 の河道となっています。支川の高崎川は、佐倉市街地を貫流している佐倉市のシンボリックな川ですが、近年浸水被害が頻発していることから、対策が要望されています。

【師戸川】

師戸川は、印西市草深にその源を発し、谷津田の中を西方向に流れながら造谷川、角田川を合流し、ここで流れを南向きに変え、印旛沼に流入する流域面積 15.1km²、指定延長 7.1km（支川含む）の河川です。

師戸川は、千葉ニュータウンに関連した改修が進められ、コンクリート張水路として改修が完了しています。支川は調節池からの放流水を師戸川まで流すための水路で、河道断面は非常に不足しています。

【^{たぐり}手繰川】

^{たぐり}手繰川は、^{だいにち}四街道市大日にその源を發し、四街道市街を貫流した後谷津田の中を北流し、^{こだけ}印旛沼に流入する直前で左支川小竹川を合流して印旛沼に注ぐ流域面積 30.1km²、指定延長 3.5km（小竹川含む）の河川です。

手繰川は川幅 15m程度、法勾配 1:2 の河道として改修が完了しています。なお、沿川は水田として利用されています。

【^{かんざき}神崎川】

^{かんざき}神崎川は白井市根にその源を發し、^{きどまえ}木戸前川、^{ななつき}七次川、^{のぐち}野口川を合流しながら谷津田の中を北東に流れ、国道 16 号から(主)市川印西線の間で大きく弧を描くように流れを南東に 90° 変えます。ここで右支川^{ふたえ}二重川を合流し、さらに谷津田の中を流れ、^{とがみ}戸神川を合流して^{いんばほうすいろ}印旛放水路に合流する流域面積 56.0km²、指定延長 26.9km（支川含む）の河川です。

下流端から二重川合流点までは改修が完了しており、法勾配 1:2 の河道となっています。現在、神崎川の二重川合流点上流や二重川の改修が進められています。二重川を除いた支川は、防災調節池からの放流水を流すための水路で、河道断面は非常に不足しています。

【^{かんのう}桑納川】

^{かんのう}桑納川は、^{つばいちよう}船橋市坪井町にその源を發し、谷津田の中を北流しながら^{こまごめ}駒込川、^{きど}木戸川を合流します。ここで流れを東方向に変え、^{いしがみ}石神川、^{はなわ}花輪川、^{つがね}津金川を合流して印旛放水路に注ぐ流域面積 26.1km²、指定延長 7.0km（石神川含む）の河川です。

桑納川は、平成 8 年 9 月の災害を契機に改修が進められており、河道拡幅後は川幅が 30m 程度となり、元々の川幅の約 2 倍に拡幅されました。石神川は、^{さくきよ}柵渠水路であり、下総台地に深く刻まれた谷津田の地形を利用して、調節池が設けられる予定です。

【^{いんばほうすいろ}印旛放水路(下流部)】

^{いんばほうすいろ}印旛放水路(下流部)は、元々^{かりゅうぶ}印旛沼に流入していた^{かつた}勝田川と^{たかつ}高津川を東京湾側に流域変更し、上流端に設置された^{おおわだはいすいきじょう}大和田排水機場によって印旛沼の洪水を東京湾に流すために整備された流域面積 61.7km²、指定延長 16.5km（勝田川含む）の河川です。

印旛放水路(下流部)は印旛沼開発事業により下総台地を^{かいさく}開削して作られた人工河川ですが、工事経過後 40 余年を経過し、^{しゃめんりん}斜面林などが回復した結果、圏域で最も自然の残された河川の一つとなっています。勝田川は、谷津田の中の農業用排水路で法勾配 1:2 の小規模な自然河道ですが、一部に^{やいた}矢板護岸の箇所もあります。

【^{ねこな}根木名川】

^{ねこな}根木名川は、^{ねこな}富里市根木名地先にその源を発し、^{やっだ}谷津田の中を北上しながら右支川^{とっこう}取香川を合流します。ここで流れは開けた低平地に入り北上を続けながら左支川^{こばし}小橋川、右支川^{あらうみ}荒海川を合流して利根川に注ぐ流域面積 86.8km²、指定延長 30.4km（支川含む）の河川です。

根木名川の改修は、昭和 7 年に始まった土地改良事業を皮切りに、中小河川改良事業（S33～S40）、空港関連事業（S43～H6）を経て暫定改修が完成しており、現在、将来計画 1/50 に向けての整備が進められています。

河道は、^{のり}法勾配 1:2 の複断面形を基本としており、低水路幅が広くヨシ^す洲が多く見られます。成田市のシンボリックな川として、ふるさとの川整備や桜並木の整備等の親水事業が実施されており、良好な河川環境が保たれています。

【^{はせんねこな おぼね}派川根木名川・尾羽根川】

^{おぼね}尾羽根川は、^{たいえいまち}香取郡大栄町にその源を発し、^{みすかけ}谷津田の中を西流しながら成田市水掛で開けた低平地に入り、下総町^{よつや}四谷地先で^{はせんねこな}派川根木名川に合流し、ここで流れを北向きに変え利根川に注ぐ流域面積 33.1km²、指定延長 6.8km（派川根木名川含む）の河川です。

尾羽根川は、農業排水路として利用され、災害による一次改修が完了しています。

【^{とおか}十日川】

^{とおか}十日川は、^{かみふくだ}成田市上福田地先の^{さかたけ}坂田池にその源を発し、^{しもふくだ}谷津田を東北に流下しながら成田市下福田地先で開けた低平地部に入ります。ここで流れを北向きに変え、^{はせんとおか}派川十日川を分派した後に利根川へ注ぐ流域面積 15.3km²、指定延長 6.7km（派川十日川含む）の河川です。

十日川は、農業排水路として一次改修が完了しています。

【^{たつだい}竜台川】

^{たつだい}竜台川は、^{あそう}栄町麻生地先にその源を発し、開けた水田地帯をひたすら北上し、利根川に注ぐ流域面積 6.3km²、指定延長 1,900m の河川です。

竜台川は下流の 650m 区間が農業排水路として^{やいた}矢板護岸で概ね 10 年に 1 度の降雨に対応できる整備が完了しています。